

何が変わったか

「変化」させるための秘訣と注意
(Ver 2)

清水 吉男

(株) システムクリエイツ

URL=[http://village.infoweb.ne.jp/ fwgf2942/index.htm](http://village.infoweb.ne.jp/fwgf2942/index.htm)

以前と比べて変わったことは？

- ☞ 最初に作業フローを書いて、ゴールまでの流れを把握するようになった
 - 無意味な成果物を作らなくなった
- ☞ 自分の作業を定義するようになった
 - 自分の行動が客観的に見えるようになった
- ☞ 簡単な作業でもスケジュールを考えるようになった
 - 飛び込みの1週間の作業を外さなくなった
 - きちんと作業が終わるようになった

変わっていない！

- ☞ プロセスを改善する方法を習得したはずなのに、現実には殆ど変化していない！
 - 勧められた幾つかの成果物は断片的には書けているが・・・
 - ・ プロジェクトの計画書
 - － スケジュールは書いているが殆どミートしないし、実績がうまく書けない
 - － 最近は、詳細なスケジュールを書かなくなった
 - － リスクの項目は最初に計画書に書いたまま
 - ・ 要求仕様書
 - － 仕様に関するバグが、相変わらず出ているし、増えだしたように思える

元に戻る原因 -1-

☞ 新しいことを学習しても、以下のような状況を作ってしまうえば簡単に元に戻ってしまう。

- 過去のバグに対応するとき

- ・ かつて設計書もなく計画も、作戦もない状態で作ったことがそのバグの原因であるのに、今、それを修正するに当たって、また同じような姿勢でそのバグに対応している。
 - 構造図の書き方やデバッグの仕方など、“あの時”は身に付けていなかった新しい知識やノウハウを身に付けること。
 - その他、プロセスの改善で新しく学んだことを少しでも使いながら対応すること！
 - 例えば、そのバグに対応するにあたって、状況を判断する「プロセス」を入れて、「作戦を立て」作業量を「見積もり」見通しをつけること。
 - 原因を見つけたとき、修正するに当たって「変更制御」を取り入れること

元に戻る原因 - 2 -

- 改善に取り組んでいない他部門の人と接するとき
 - ・ 折角、自分たちは改善の取組みを身に付けたのに、そのような取組みをしていない他部門の人のペースに合わせてしまっている。
 - － メールでの問い合わせの返事が3日もかかっているのに、じっと待つことは止めて、自分たちのペースに巻き込むこと。
 - － どうしても段取りの悪い人には、こちらで段取りして、それに乗せてしまおう。
 - － 作業を依頼する際に、一連の作業の流れをプロセスフローにして見せるのも良いでしょう。
 - ・ 特に、仕様を書く部署と設計の部署が異なるときは、当事者同士では埒が開かないことがある。

変わらない原因 -1-

☞ プロセス改善の方法を学習する機会を得ても、
以下のような姿勢のままでは変化しない。

- 「そうですね、しかし」 というゲームを演じてしまう
 - それを取り入れることの難しい場面を、直ぐに探し出してしまう。
 - 簡単に取り入れることの出来る取組みなんてあるわけがない。それがあんなら、この種の取組みの必要性はないか、あっても小さいはずである。
 - 多くの場合、「All or Nothing」の姿勢になっている。大事なことは、「変化させること」であり、「変化を常態化させること」である。したがって、中間のところで一歩進めることが大事。

変わらない原因 -2-

- まだまだ新しい方法が身に付いていないのに、自分の考えを出そうとする
 - ・ 体に染みついているのは、改善に取り組む前のやり方であり、旧来の発想であるのに、ちょっと話を聞いただけで、あるいは、ちょっと文献を読んだだけで、対応を考えようとしている。
 - ・ 実際に、入手した文献や資料に戻って、何度も読み返えされていない。
 - － 何度も、文献に戻ったり、話のメモに戻って、確認しながら考えをまとめ、対応方法をまとめていくこと。
 - － 自分の記憶の中に、文献の文章や図や、セミナーなどの説明の場面がくっきりと浮かんでくるぐらいに繰り返す。

変わらない原因 - 3 -

- 日常の中で取組んでいない。特に、プロセスの定義などは、別にソフトウェアの開発だけのものではない。問い合わせのプロセスや、技術テーマの学習プロセス、研修発表のプロセス、部品発注のプロセスなど、応用されるべき「場」はいくらでもある。
 - － “習慣化”が必要なテーマは、日常の中で使ったり、応用する工夫が必要です。

変わらない原因 - 4 -

- “出来ることしか出来ない”を間違って理解していませんか。
 - ・ 確かに、いかなる取り組みでも、“出来ること”しか出来ません。でもここでいう“出来ること”とは、“今、出来ること”ではありません。
 - ・ 今、出来ないことの中から、“それじゃ、どこまでなら出来るか” “そこまではやってみよう”という自問に対して、今までやったことのないことを、一つでも2つでも取り組むことです。
 - ・ このような発想を、自然に身に付けている人は、何も難しく考えなくても、このような姿勢で取り組んでいます。身に付けていない人は、意識して取り組まないと、現状から一步も変化しないことになります。

変化を楽しんで！

☞ 1年前を振り返って、変わっている自分を発見する楽しみを得てください

- 変化を避けて通れる事はありません。それはただの錯覚です。あるいは、周囲の人も変化していないだけです。
- もしかして、顧客に対しても利益を与えていない可能性があります。
- 現状が、十分な生産性を獲得していない以上、その状態で居続けることの合理性は存在しません。
- 経済がグローバル化し、人が国境を越えて行動するようになるということは、仕事の仕方も世界標準であることが求められるということです。
- それを怠ったとき、その組織は競争力を失ってしまいます。組織の競争力は、それを構成する個人の競争力によって成り立っています。